

熊野古道にはどんな自然があるのかな？



なるほど！東紀州のぶしほしゅうのくまシリーズ②

熊野古道にはどんな

自然があるのかな？



三重県

熊野古道周辺には 自然がいっぱい！

わたしたちが住む熊野古道の周りは、山や川、海が広がる自然に恵まれたところです。

一年中、比較的暖かく、尾鷲市ではなんと年間4,000ミリ（他の多くの町では1,000ミリほど）もの雨が降ります。そのため水がとてもしっかりで、緑がいっぱいで、空気がさわやかです。

山に降った雨は川に集まり、田畑をうるおし、海へと流れます。川底がきれいに見える水の中には、カワゲラやカゲロウなどの水生生物もたくさん住んでいます。川辺にはコケやシダのほか、スマレやタンポポなどきれいな花を咲かせる草花がたくさん顔をのぞかせ、チョウやトンボが舞い、小鳥たちが飛び交います。

このように、いろんな生き物がたくさん住める熊野古道周辺は自然豊かなところです。

たくさんの自然の中に
いろんな生き物があるんだね。



アマサギ



ツワブキにとまる
アサギマダラ

熊野古道を歩いていると、土や石が掘り返されているところや草や木の枝が食いちぎられている場所が目につきます。土が掘り返されているのは、イノシシが餌を求めて歩いた跡です。草や木が食いちぎられているのは、シカのしわざです。熊野古道はわたしたち人間だけでなく、いろいろな動物の行き交う道でもあるのです。



シカの背が届く範囲がきれいに食べつくされているんだ。



ツヅラト峠からの眺め

最近、わたしたちの住んでいる住宅の近くで、たびたびサルやシカを見かけます。これは自然がいったいとは少し違った見方をするほうがいいのかもかもしれません。

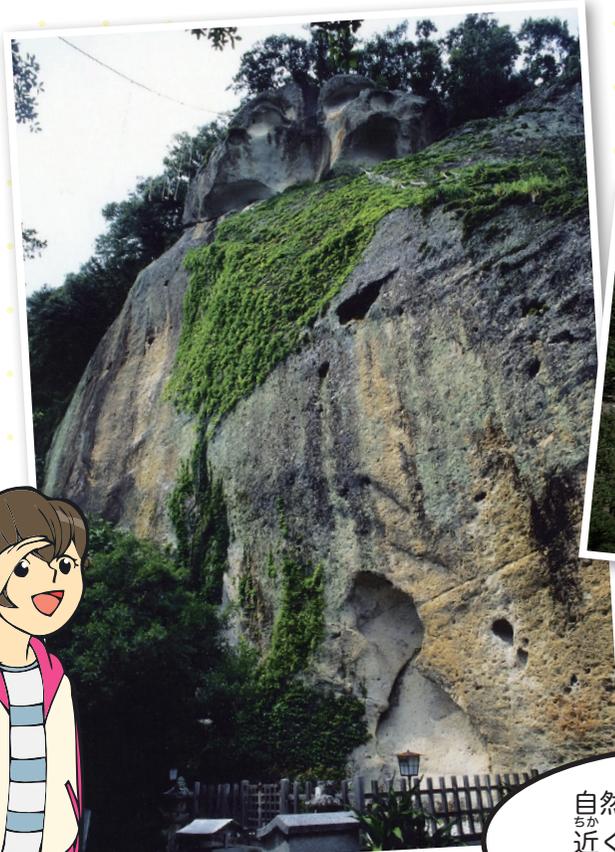
秋になると、夏の間、日本で過ごしたアマサギなどの渡り鳥が東紀州地域の上空を飛んで南の温かい国に渡って行くそうですが、その途中、天候が悪くなると環境のいい場所に降り立って2日ほど羽を休めます。やはり、そのような場所も鳥たちにとっては自然に恵まれた場所のひとつになっています。

渡りでは、アサギマダラというきれいな蝶の渡りもこの地域のあちこちで見られます。フジバカマのピンクの花やツワブキの黄色の花が咲く秋のころです。

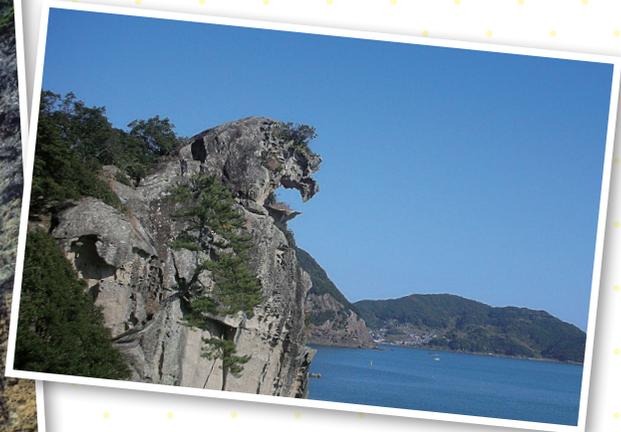
熊野の自然には 神さまがいる？

熊野古道を歩くと、山の頂上にある大きな石や根本の周囲を大人5人が手を伸ばしてやっとなげられる大きな木、しぶきを上げて流れ落ちる滝など、自然の不思議な風景がいっぱいあります。そして、それらには神さまが宿っているにちがいないと、昔から大切にされてきました。尾鷲神社にある大きなクスノキ「夫婦クス」、大きな岩の「花の窟」や「獅子岩」、豪快な滝しぶきの「那智の滝」など、これらはわたしたちの力や科学の力で作れる物ではありません。

そのような場所は古くから神さまたちが住む神聖な場所とされ、たくさんの方がお参りに来るようになりました。そしてその人たちが行き来して出来た道が熊野古道です。



花の窟



獅子岩



自然のままの姿だよ。
近くに行くとすごい
迫力だね。



コラム

花の窟の お綱かけ神事



花を祭ることから「花の窟」と呼ばれるこの神社では、毎年10月2日に菊の花を、2月2日にヤブツバキの花を、縄で編んだ旗の先につすお祭りが行われます。

長さが約180mの太い綱を岩の頂上から七里御浜に向かって引っ張る珍しいお祭りです。お祭りの日にこのお綱にさわると「たいへん良いことがある」と言われ、多くの人綱を引くことから「お綱かけ神事（三重県の無形民俗文化財）」と名づけられています。



お綱かけ神事



みんなで綱を引っ張ってたの楽しそうね。

熊野市にある「花の窟」の神さまは日本で最も古い神さまといわれており、高さ約45mの大きな岩がご神体です。

「鬼ヶ城」と「獅子岩」は国の名勝及び天然記念物で、いずれも熊野市の海岸沿いにあります。獅子岩などは、獅子が大きな口を開けてにらんでいるように見えます。地元（ちよん）の氏神（うぢがみ）・大馬（おおま）神社（しんじ）を守る狛犬（こまいぬ）の役目（やくめ）をしているともいわれています。



那智の滝

すごく高いところから水が流れ落ちているんだね。



熊野三山（熊野那智大社・熊野速玉大社・熊野本宮大社）のひとつ和歌山県那智勝浦町にある熊野那智大社には、近くに青岸渡寺と那智の滝があります。那智の滝は日本一の滝で、133mの高さから落ちる滝のしぶきが豪快です。

この他、わたしたちが住む東紀州の各地でも山や海岸近くをじっくり探せばきっと大きな石や岩、大木が見つかるはず。そこには神さまが宿るとして昔から大切に守られ、大事にされてきた祠や神社があると思います。わたしたちの先祖は、自然そのものに神さまが宿ると信じていたのでしょう。

石畳は何のために 作られたの？



石畳はアスファルト
がなかった江戸時代
の舗装技術といえる
かもね。



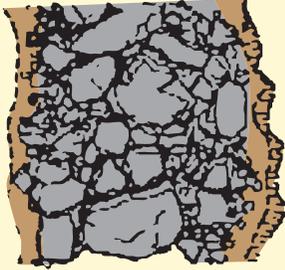
東紀州一帯は日本でも雨の多い地域です。
谷沿いや山の傾斜に続く熊野古道は大雨が降ると
たちまち川のようになり、道として使えなくなります。
そのために石を使い、雨が降っても崩れることのない
安心して歩ける道づくりに工夫を重ね、知恵と努力
によって出来上がったのが石畳です。

これらの石畳は、道行く人たちの安全と歩きやすい
工夫がされている他、土砂崩れや水害防止に役
立ちました。石を敷き詰めて作る石畳には、階段と
は違い歩く人の歩幅に優しい心配りがされています。

いろいろな種類の石畳

「熊野古道と石段・石畳」より引用

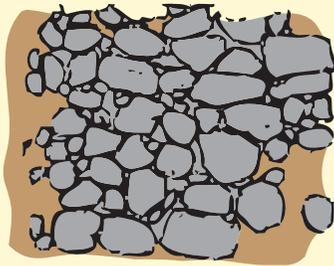
とつげみち
ツツラト峠道



やきやまみち
八鬼山道



まつもととつげみち
松本峠道



石畳にはいろんな模様があるよ。
どんな石畳があるのか実際に歩いて見よう！



階段は高さがほぼ一定で、人によっては歩幅が合わずとても疲れます。しかし、石畳は大小さまざまな石を敷き詰めているので、女性や子どもでも自分の歩幅で歩くことが出来て、疲れを和らげてくれます。

この石畳の石は、ほとんど近くの自然石を利用して、その石の組み方は江戸時代のお城の石垣を作る方法と似ており、大小の石が互いのがっちり押し合っぴくともしません。また、ところどころに石畳を横切るみぞ「洗いごし」があり、わき水や雨水を山側から谷側に逃し、道行く人達が安全に歩けるような工夫もされています。

このように400年もの間、水に流されず、今もその強さと美しさを保っている石畳からも当時の技術の素晴らしさが伝わってきます。



どんな植物があるのかな？

一年を通して雨が^{いちなん とお}多く温暖な^{あめ おお おんだん}熊野古道^{くまの こうぞ}沿いでは、尾鷲^{おわせ}ヒノキやスギなど、たくさん^{さかな ほんしよく ほご もくてき}の植物が見られます。また、海岸^{かいがん}に近いところでは、魚^{さかな}の繁殖と保護^{ほんご}を目的に、木^きを切ることを禁止^{きんし}している魚付林^{うおつきりん}という森林^{しんりん}も見ることができます。



ヒノキ

日本特産^{にほんとくさん}の常緑高木^{じょうりよくこうぼく}（一年中^{じゅう}、緑^{みどり}の葉^はをつけ大きくなる木^{おお}）、火^ひがつきやすいので火^おの木^きと言われていま^すす。伊勢神宮^{いせじんぐう}などで火起こ^おしの神事^{しんじ}には、このヒノキ^{つか}が使^{つか}われます。また、ヒノキ^{ふる}は古^{ふる}くから家^{いえ}を建てたり^た彫刻^{ちようこく}などの材料^{ざいりよう}に使^{つか}われたりしています。



スギ

日本特産^{にほんとくさん}の常緑高木^{じょうりよくこうぼく}で日本^{にほん}の中^{なか}では一番^{いちばん}多く利用^{りよう}されている木^きです。神社^{じんじや}などでその巨木^{きよぼく}が見^みられます。



イズセンリョウ

春^{はる}には黄白色^{おうはくしよく}の小さな花^{ちい はな}をつけ、秋^{あき}には小さな白^{しろ}い実^みを鈴^{すず}なりにつけて熊野古道^{い ひと}に行く人^{あしもと}たちの足元^{たの えん}を楽しく演^{えん}出^{しゅつ}してくれます。



クスノキ

常緑高木^{ぜんたい}で、木全体^{きんたい}にショウノウとい^う成分^{せいぶん}が含ま^{ふく}れ、枝^{えだ}を折^おると良い香^{よいかお}りがします。神社^{じんじや}などでその巨木^{きよぼく}が見^みられます。

海岸^{あおあお}沿いには一年中^{あおあお}青々とした葉^{あおあお}っぱをつけているクスノキ^{あおあお}やシイ^{あおあお}など、照葉樹林^{しょうようじゆりん}帯^{たい}も広^{ひろ}がっているよ。



ウラジロ

熊野古道の道沿いでよく見かけられるシダのひとつ。お正月の注連飾りにつけるシダで、葉の裏が白く見えることからこの名前がついています。この葉で頭飾りを作ったり、グライダーのように飛ばしたりして遊ぶこともできます。



もりの中は太陽の光が届きにくく、湿度も高いので、シダやコケの仲間がたくさん見られるよ。



ヒノキゴケ

木の下などに群生する美しいコケで、茎の一番上が動物の尻尾のように少し曲がっています。そのためイタチのシッポとも呼ばれ親しまれています。京都の苔寺にも植えられています。

リュウビнтаイ

東紀州では大型のシダで、葉の長さも2メートルにもなります。葉は濃い緑で光沢があります。熊野古道の道沿いでもたまに見られます。



ササユリ

笹のような細い葉がついていることからこの名前と呼ばれています。やさしい香りと淡いピンクの花はとてかわいらしく、多くの人に親しまれています。



ハナミョウガ

5月ごろ穂のような淡い赤色の花をつける常緑の多年草。葉がミョウガの葉に似ていることからこの名前がついています。尾鷲地方では香りがいいので、押し寿司の下敷に使います。

どんな動物が いるのかな？

くまの ことろぞ
熊野古道沿いには
動物がいっぱい
いるよ。



おも
主な動物ではクマやイノシシ、シカ、サル。きけん
危険な動物にはへびの仲間マム
シ。ちい
小さな動物ではノウサギやタヌキ、日本だけにしかないかわいいヤマネな
ども住んでいます。

むかし
昔から熊野古道周辺のお百姓さんはシカやイノシシから農作物を守るためし
垣を作りました。いまのうか
今も農家の人たちはシカやサル、イノシシなどが田畑を荒ら
すため困っています。いろいろな動物が住めるのはとても良いことなのですが、こ
れからはいつまでもわたしたちと一緒に、楽しく暮らせる環境づくりを考えること
も必要です。



ニホンザル

おみじか
尾が短く顔と尻だこが赤いのが特徴で、普
通、リーダーのボスザルを中心に群れで
行動します。食べ物をさがしながら移動し、
日が暮れると泊まり場の木の上などに散ら
ばって眠ります。



イノシシ

ざっしよくせい
雑食性で農作物を含むタケノコや
ヤマノイモなどいろいろな植物の他、
カエル、サワガニ、ミミズなどの小
動物も食べます。



ニホンジカ

イネ科の植物やカシ類やヤブツバキなどの葉、スギやヒノキの皮などはいで食べます。紅葉がきれいな10月ごろがニホンジカの恋の季節で、「ヒユイ～オ～ ヒユイ～オ～」という鳴き声を聞くことができます。

タヌキ

奥山よりも人里に近い山の草むらに住み、昼間は地上で眠り、夜に活動します。昆虫やサワガニ、カタツムリ、ミカンやカキなども食べ、人家に近づき残飯などもあさります。



イタチ

県内全域で見られる動物のひとつ。ネズミ、鳥、カエル、魚、昆虫などの動物やカキ、アケビ、イチゴなど植物の実を食べます。

イモリ

日本特産種で池や沼、水田、山地の谷などに住んでおり、お腹が赤い他は全体が黒くグロテスクにも見えます。冬眠する以外は1年の大部分、水中で生活し、水中のあらゆる小動物を食べています。



マムシ

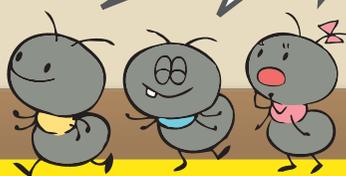
毒蛇ですが、ハタネズミなどの駆除には貢献しています。大きさは50センチ前後、攻撃的なヘビではありませんが、踏んづけたりするとかまれることもあります。子どものマムシにも毒牙は発達しているので、むやみに捕まえないようにしてください。

わたしたちの町にある世界の宝もの「熊野古道」。昔
の人々や地域の人々が大切に守ってきたわたしたちの
宝ものです。この「熊野古道」をいつまでも大切に伝
えていくために、次のことは必ず守りましょう。

- ✓ 道であった人には笑顔であいさつをしましょう。
- ✓ ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ✓ 植物・動物などの採集はやめましょう。
- ✓ 道からはずれないようにしましょう。
- ✓ 火遊びは絶対しないようにしましょう。



みんなの力で
世界遺産「熊野古道」を
守っていきましょう！



監修 三重県立熊野古道センター
発行 三重県政策部東紀州対策局
東紀州対策室

〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL 059-224-2193 FAX 059-224-2418

本書掲載の文章、写真およびイラスト、図等の無断転載、
無断引用、二次配布についてはこれを固く禁じます。

